

雑木林だより

第9号（2018年4月発行）

編集・発行：NPO法人北本雑木林の会広報部

連絡先：080-5697-6241

北本雑木林

検索

住み続けたいまち 北本!!

身近に田んぼや畑や

雑木林のあるまち

北本市の地図を開いてみると、高崎線・中山道周辺に市街地が広がっていますが、その他の地域は農地や雑木林です。

みなさんのふるさとはどこですか。苦しいときや楽しいとき、ふと浮かんでくるのはどんな風景でしょうか。北本を住まいに選んだのはなぜですか？このまちで生まれ育った子どもたちは、ここ北本がふるさとです。毎日学校の行き帰りに目にする風景や様々な体験が心に残る原風景となり、心の財産となるのです。

武蔵野の面影を残す

北本中央緑地

高崎線の下り電車に乗って北本駅近くになると、まもなく車窓には雑木林が見えてきます。この風景こそ誰もが北本だとわかる「雑木林のあるまち北本」の原風景ではないでしょうか？この雑木林は今から35年程前北本市が買取り市の財産としました。幅20メートル、長さ1.3キロメートルの高崎線の両側に帯状に続く「北本中央緑地」という雑木林公園として市民に親しまれています。当時はどこのまちも雑木林がことごとく伐採されて道路と住宅だけの潤いのないまちに変わっていききました。そんな中で北本市は雑木林を買取り後世に残したのです。なんと先見の明ある素晴らしい判断であったことかと思えます。緑地の碑には武蔵野の面影を後世に残すことがしるされています。さらにこの中央緑地周辺の北本南部地域には十数箇所の雑木林が残っています。北本市が「市民緑地」に指定して固定資産税を免除している林もあります。

国定史跡級のデーノタメ遺跡

しかし、今残る林も相続などで消滅の危機に直面しています。さらに北本南部に残る国定史跡級といわれるデーノタメ縄文遺跡の眠る6ヘクタールの雑木林は、区画整理計画の中にあり消滅の危機に直面しています。この計画は昭和30年代に作られ、50年以上も経た今になって実行されているものです。計画では桶川から続く幅18メートルの道路がデーノタメの森を縦断することになっていました。住宅を増やし市民税を増やしたいというのが市の考えのようですが、市内移動だけで人口は増えていないのです。それでも市は計画を進めると言います。遺跡を後世に引き継ぐことこそが私たちのすべきことではないでしょうか？



子どもと緑（こえどファーム）

30年後50年後を見据えた

まちづくり

どこの自治体も財政難に直面する中、目先のお金に飛びつくのではなく30年後50年後を見据えたまちづくりをしていきたいと思います。市内移住の住宅地を増やすことより環境重視の子育てしやすいまちをつくることです。環

境の良きこそがこれからのまちづくりのキーワードです。住み続けたいまちの決め手です。幸い北本の郊外には西に子供公園や自然観察公園、東に総合公園があり、雑木林や畑がまちの中にもあり、国定史跡級のデーノタメ遺跡が残っています。これらをまちの魅力として発信していきましょう。今後

深刻になる温暖化や異常気象の問題を緩和して子どもや孫世代も住み続けられるまち、若い人も熟年世代にも「選ばれるまち北本」をめざすには、歴史と雑木林のある景色や農村の風景こそ大切なのではないのでしょうか？住宅地には生垣や花壇を作り空き地や駐車場の周りも植栽して地域の住民が世話をすればコミュニケーションの場にもなるでしょう。さらに市内のスーパーや事業所にも植栽を呼びかけて緑あふれるまちにしましょう。最近行われているオープンガーデンも緑を増やす有効な手段です。緑あふれるまちには人々を惹きつける魅力があります。そして休耕農地は家庭菜園にすれば土に触れることで病気予防にもなるでしょう。

森と子育てのつどいは

みんなのつどい

会では毎月市民緑地4号の雑木林で「森と子育てのつどい」（通称モリトコ）を開催していて、子どもたちが林の中で自由に遊ぶ場を提供しています。子どもの時に自然の中で遊んだ体験はその後の人生を生きる基盤となるといわれています。今モリトコには市内はもろろん桶川、鴻巣、行田などから親子連れがやってきました。これからもっと多くの子どもが遊びにきてくれそうです。また子どもだけでなくシニア世代にももっと林を利用してほしいと願っています。多くの林ではラジオ体操をやっています。みなさん、雑木林を大いに利用し活用しましょう。

雑木林よありがとう

作詞 北本楽亭
作曲 江藤善章

春のあたたかな雨がそほ降る
こなら くぬぎ つわみずざくら
シヤワーを浴びて背伸びして
林はみんな嬉しそう

ツッピン ツッピン シジユウカラ鳴き
キジバトがオーボエ吹いてる
しゅんらん つゆくさ やまあざみ
生きとし生けるものたちよ

いのちはぐくむみんなの林
雑木林よありがとう
(繰り返し)



若葉がすぎれば青葉の季節
風がざわざわ吹き抜けてゆく
クワガタ カブトムシ アゲハチョウ
子らはおいかけよじのぼる

梢のうえの空澄みわたり
紅葉とりどりドングリころり
焚き火ばちばち焼芋あちち
落ち葉の布団 木は眠る

いのちはぐくむみんなの林
雑木林よ ありがとう
(繰り返し)



北本の雑木林を詠った『雑木林よありがとう』は今から15年ほど前、元雑木林の会副会長の故・粒針 修さんにより「北本楽亭」のペンネームで作詞されました。ワインをこよなく愛する豪放磊落な粒針さんでしたが、自然が凝縮された雑木林を見事に描写した詞は、今も、雑木林保全に向け活動する会員の大きな支えになっています。

作曲の江藤善章氏はパンフルート奏者、震災復興支援ボランティア団体「宮北会」代表。かつての会主催「雑木林コンサート」で全10回出演しトリを務めていただきました。

イベント盛りだくさん！～秋・冬の雑木林から～

秋の雑木林を楽しむ集い

発刊が遅れて昨年（こと）になりませんが、十一月最後の日曜日、そこだけポツカリと雲が切れて陽が差したような、小春日和のイベントでした。秋の雑木林を、たくさんの方々に楽しんでいただくために始めた雑木林の会主催「秋の雑木林を楽しむ集い」の第1回目です。

会場は中央緑地の西側、踏切からかなり奥まった見えにくい場所です。にもかかわらず200人を超す予想以上の参加者でした。

主な催しは、食べることで遊ぶこと。食べることは、煮込みうどん、焼き芋、マシュマロを用意しました。煮込みうどんはとも好評で、お替り分まで十分に応じられないほどでした。焼き芋は、半切りのドラム缶で焼き、マシュマロはドラム缶の周りで焙り、少しトロツとさせて食べます。子どもはみんな大好きです。

遊ぶことは、大ブランコ、タイヤブランコ、切り株渡りなど種類のシューターなどを会のおじさん達が前日に用意しました。木工コーナーはたくさん用意した木片を、自由に切ったり、くぎを打ったりの大人気でした。一方大人にも人気は、紅葉した落ち葉を集めてラミネート加工する落ち葉の下敷き作りです。

天気にも恵まれたこともあり、予想をはるかに超す市民の方たちの参加で、一回目の集いとして、成功裏に終わったと思います。

雑木林で遊ぶのも、食べるのも格別という思いを、多くの市民の方々に経験していただけたと思います。それが「楽しむ集い」の目指すところなのです。

「楽しむ集い」の雑木林を楽しむ集い
 開催日時 11月10日(日) 10:00～12:00
 会場 中央緑地4号



3人乗れる大ブランコ



煮込みうどんおいしい！



切り株わたりでジャンケンポン！

餅つき新年会

一月一四日、今シーズン最大の寒波到来の真つただ中、北風ビュービューの日、モリトコ（森と子育ての集い）とのコラボ餅つき新年会が行われました。8臼の餅を大人も子どもも重い杵でがんばってつきました。

あんこ、きなこ、からみ、納豆それに雑煮とたくさん種類の餅を味わって、つきたての餅を堪能しました。今回は、解脱会の「あしもみの会」が焼き芋つくりで参加され、楽しい交流もありました。とても寒い日だったせいか、モリトコの参加者はいつもより少なかったのですが、子どもは寒くても元気です。そして、雑木林の中で食べるのはいつも以上に不思議と美味しいんですよ。



おじさんと一緒にヨッコイショ！

親しむ集い

もうずっと続いている中丸1丁目自治会と雑木林の会の一月のイベントです。中央緑地東側に去年のうちに降り積もった落ち葉を、腐葉土作するために集めるのが主な仕事です。

真冬の一時間くらいは作業でも汗びっしょりになります。そこでキュッと冷えたビールと、作業の間に用意した焼き芋と豚汁を頬張ると最高のおいしさです。子どもたちには簡単な手作り遊具や木工コーナーを設置しました。恒例のイベントで変化はありませんが、安定があるこんなイベントもいいものです。

遊歩道の

「行き止まり」解消

高崎線の両側に線路を挟んで带状に続く雑木林が「北本中央緑地」です。下原第一踏切西側の林の中に続く遊歩道を北に向かつて進むと250mほどでその先は行き止まりになっていました。この度、公道までの間に約100mのL字形に新しい遊歩道を作り通り抜けができるようになりました。

民有地なので持ち主の方の了解を得て作業開始です。刈払い機で道をつけ、土に埋まったごみを取り出します。消火器や自転車の部品、カン、ビン、ビニールなどがゴミ袋に6個集まりました。その後チェーンソーで大きな木や切り株を切り、歩きながら躓きそうな蔓や切り株を確認して鎌で丁寧に取り除きました。同時進行で林に自生しているジャノヒゲを遊歩道の両側に移植しました。最後に遊歩道の両側には、線路や林の中に入らないように杭を打ち、杭の穴にロープを通して完成となりました。細い遊歩道に入ると山道を歩いているようで、公園の中とは違った風景が広がります。この散策路の開通により中央緑地と市民緑地1、2、4号等が結ばれるようになります。みなさんもお楽しみください。



開通した遊歩道

キジバト

昔は山鳩と呼ばれて、山村に住んでいましたが、一九六〇年代頃に都会に進出してきたといわれています。オスのデッドポーターと鳴く声はのどかで、親しみがありません。繁殖する時期は三月から十一月にかけての長い期間に及び、この間に6回から8回も子育てをするものがあります。一回の繁殖ごとにつがいの相手が変わることも多いとか。

オスが枯れ枝を拾ったり、木から折ってきてメスに渡し、主にメスが巣を作ります。ほとんど植物食で、これをそのうという器官にためて、徐々に消化します。またこの器官の内壁のはがれたものを吐き出して、ヒナに与えます。これをピジョンミルクといい、脂肪分やタンパク質に富んだハト類共通のお子様メニューです。ヒナは親鳥の口の中に自分のくちばしを入れ、一回に約1分もかけてピジョンミルクを飲むので、一日に両親が給餌する回数は数回から多くても20回足らずと、かなり少なくてすんでいます。因みに、シジュウ



参考 鳥のおもしろ私生活 ピッキオ編著

モリトコだよ

はじめまして。森と子育てのつどい（通称モリトコ）です。モリトコは子どもたちが地域の方々に見守られながらやりたいことに生き生きと挑戦する遊び場を作りたいと願い、2016年7月に始まりました。月一回の開催（第2日曜日）ですが、回を重ねることに参加者が増え、市外から来てくださる方もいます。雑木林という環境は他の公園とは違い、季節の移り変わりを肌で感じるができます。やりたい遊びは自由です。井戸の水を汲んだり、泥遊び、

タイヤブランコ、木工、ネイチャーゲームなど。もちろん、何もなくてもオツケー。たくさん遊んだ後は、食べたいもの、焼きたいものを自由に持ってきて、木々に囲まれ、美味しくいただきます。子どもも大人もなたでも、地域のみんなで作るモリトコ。たくさん素敵な出会いが待っています。この春、子どもが十人ちかく乗れるスライダーロープも加わります。ぜひ遊びに来てくださいね！
 場所 市民緑地4号
 (北本南小学校そば大村庵となり)
 駐車場あり トイレあり